

自ら学び 自ら鍛える

Team 北中

令和2年度 学校報 第3号 令和2年6月1日

発行責任者：瑞浪北中学校校長

担当者：瑞浪北中学校教頭



<合言葉> クリエイティブ瑞浪北中 2nd year
—学校の特長を確かなものにする年—

はなれてつながる

校長

校庭の桜の花びらは跡形もなく、バトンタッチしたサツキの花も今はすっかり朽ちました。いつの間にか周囲の山々の緑が濃くなり、市全体が夏の装いに包まれています。

新年度がスタートして約二ヶ月が経ってしまいました。生徒たちの声や姿がない学校はひっそり閑としていました。職員の声や電話の音だけが響く学校には空しさを感じます。チャイムが響き渡り、それを合図に生徒の笑顔や真顔がはじける学校に一日も早くもどってほしい、そう思いながら過ごした二ヶ月でした。

だれのせいでもありません。だれかを責めても何も始まりません。新型コロナウイルス感染症が広まったという現実に対し、仕切り直して令和二年度を作り上げなければなりません。第二波、第三波がやってくるのが心配される中、ウイルスから生徒たちの命と身体を守るために、今後も気を緩めず取り組まなければなりません。

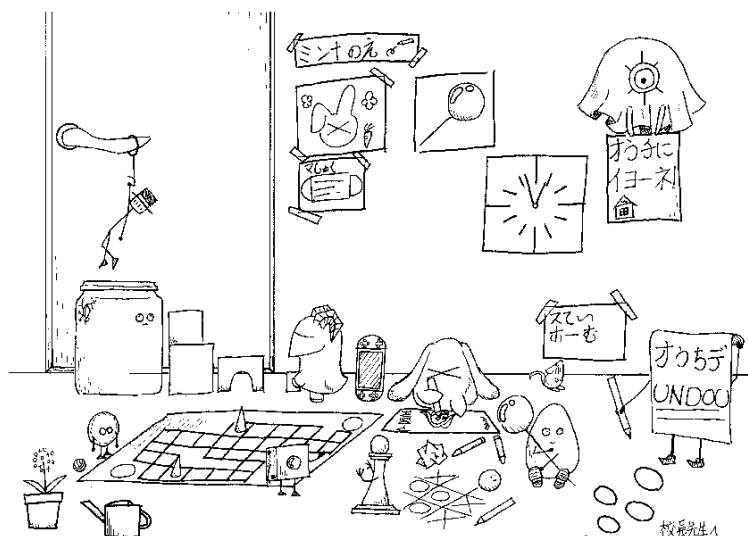
先週、全職員が緊張しながら準備登校の初日を迎えました。学校再開を見据え、準備登校中に私は次の三つのことを生徒たちに話しました。

一つは、二ヶ月にわたる長い休校中に、家庭で感染防止に取り組み一人も感染しなかった生徒たちを讃え、喜びたいということです。活動的な年頃の生徒たちにとって、長い間の行動自粛、家庭生活は、これまで味わったことのない苦しみを伴うものだったでしょう。学習におけるがんばりも大切ですが、健康でいられたことは生徒たちの努力の賜です。

しかし、油断はできません。確かに、ウイルスは「収束」しつつあるかもしれませんが、まだ「終息」はしていないからです。今後も細心の注意を払って生活しなければなりません。

二つ目は、休校が明けたからといって、開校一年目と同じ生活がすぐさま復活するわけではないということです。世間の中にも、中止や延期があふれています。準備登校や分散登校を設定したように、徐々に正常な状態に戻す必要性があります。昨年度と違うことを嘆くのではなく、今の条件の中で「新しい喜びや楽しみ」を作り上げることを目指します。

三つ目は、悩みや心配を自分の中にとめないでほしいということです。ウイルス感染に対する恐怖や、昨年度と違う学校生活に対する悩みや不安などを感じている生徒もいることでしょう。担任、学年職員や話しやすい職員、スクールカウンセラー、相談員が窓口になります。ためらわずに思いを話してほしいと、私だけでなく全職員が願っています。(25日と26日に「心のアンケート」を実施し、その回答をもとに二者懇談を実施しました。)



イラスト：「ステイホームの勧め」 W・M (3C)

「はなれてつながる」

現状に正対するとき、今の私たちにとって必要なスタンスを見事に表現した言葉です。ソーシャルディスタンスがたとえあっても、奇数偶数で登校が分かれても、行事や取り組みに中止や変更があっても、生徒、職員、保護者、そして地域の一人一人は心でつながっていたい、私は強くそう願っています。

新型コロナウイルスの完全な終息と、令和二年度の瑞浪北中の新しい生活の確立を目指して、これから一步一步前進していくつもりです。

「準備登校」から「分散登校」へ

長い休校が終わり、いよいよ学校再開となりました。瑞浪市では、5月25日から29日までを「準備登校」とし、遠ざかっていた学校生活の感覚を生徒たちに少しずつ取りもどさせたいと考えました。

25日と28日は出席番号奇数の生徒が、26日と29日は偶数の生徒が登校し、午前2時間の授業に取り組むとともに、再開に向けた感染防止策の確かめを行いました。

登校した生徒たちは、学年ごとに指定した場所で健康チェックカードを提出します。一カ所に生徒が集中しないように十分な間隔をとって列を作り（右の写真）、体調や体温を確かめてから校舎内へと進みます。（体温測定やマスクの準備を忘れた場合は、学校で測定や支給ができるようにしています。）



そして、教室に入る前には全員が手を消毒します。（左の写真）

教室では、前後左右に十分な距離をとって着席します。配付物を渡すときにはやや不便さを感じますが、隣が遠いがゆえに、一人一人が気を散らすことなく取り組んでいたようです。そのせいでしょうか、奇数の生徒も偶数の生徒も、教室での表情がやや硬かったように感じました。

しかし、考えてみれば、学級が生まれてまだ数日しか経っていません。全員がそろったのも4月7日の1日だけです。学校生活が元に戻っていけば、生徒同士や担任との信頼関係ができあがり、生徒の表情も柔らかくなっていくことでしょう。

28日からは教科の授業が始まりました。休校による未履修内容を中心に扱いました。授業が始まると、生徒たちの緊張はやわらぎ、積極的に挙手をする姿、ノートやプリントに黙々と書き込む姿など



がありました。中学校の授業を初めて経験した1年生は、全員が顔を上げ、視線を集中させて食い入るように見つめる姿が印象的でした。

6月からは分散登校に移行します。午前午後で分かれますが、毎日登校、3時間授業に取り組み、徐々に学校生活を復活させます。ウイルス感染防止に対する意識は高めたまま、仲間と学ぶ喜び、集団で取り組むおもしろさを取り戻す日も近いようです。